岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成 28 年度　第1号（通算 252 号）
平成 28 年4月1日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

学級（HR）づくりのスタートで意識したいこと！

４月は、進学や進級によって学習環境や人間関係が大きく変化します。新しい環境の中で、子供たちは大きな期待とともに、不安も感じています。年度始めの学級（HR）開きでは、子供たちの抱く不安を軽減し、新しい学校や学級（HR）等での生活に適応しやすくする必要があります。

そこで、４月当初の学級（ＨＲ）づくりで大切にしたい観点と具体的な取組例を紹介します。

安心・安全な居場所づくり

- 一人一人の子供にしっかり声をかけ、子供が不安な気持ちや悩みを教師に話しやすい雰囲気をつくる。
- 子供が互いに傷付け合ったり、相手を馬鹿にしたりするような言動を放置しないことを伝える。　など

学習意欲の向上や学習不安の軽減

- 前年度までの情報収集を基に、一人一人の子供の学力や学習スタイルに合った支援やアドバイスを行う。
- 授業での約束や学び方などについて確認する。　など

新しい人間関係づくり

- 授業や行事の中で、意図的に子供同士が直接関わり合ってコミュニケーションをとりあう場を設定する。
- 集団の中で過ごすために必要な社会的スキル（聞くスキル、主張できるスキル、問題を解決できるスキルなど）を具体的に教え、その後の指導で汎化が図れるようにする。　など

なお、中学校入学時の学級（ＨＲ）づくりには、「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム」も活用できます。
（http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h25/13-03.pdf）

また、学校や学年団等で生徒指導について共通理解しておくことも、よりよい学級（ＨＲ）づくりにつながります。生徒指導に関する校内研修パッケージは、教職員の共通理解を深めるために役立ちますので、ぜひご活用ください。
（http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/seitoshido/digitaltext_2015/index.html）

【参考資料】
国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センター
生徒指導リーフ 13「『学校いじめ防止基本方針』年度当初の確認点」
岡山県教育庁義務教育課　平成 25 年８月「学習規律実践事例集」

（担当・生徒指導部）

次回の発行は、４月 15 日(金)の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成 28 年度　第２号（通算 253 号）
平成 28 年４月 15 日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

気になる子供の実態把握について～アセスメントシート分析パッケージの活用～

新学期が始まり、１週間が経ちました。子供たちも新しいクラス、友達そして先生に慣れ、次第に落ち着いた学校生活を送ることができるようになっているのではないでしょうか。しかし、全体が落ち着いてくると、気になる子供の姿が目立つようになってきます。これらの子供に適切な関わりを行うためには、その子の実態を的確に把握する必要があります。そこで今回は、実態把握ツールとして、昨年度に当センター特別支援教育部の共同研究で開発したアセスメントシート分析パッケージ（以下、「分析パッケージ」と言う）を紹介します。

アセスメントシートとは、子供たちの学習に関わる認知面の特性を八つの観点（図１）から測定し、把握した困難さを軽減する支援を行うための実態把握ツールです。例えば、問題⑧の得点が低い場合、「聴覚的な短期記憶」に困難さがあることが推測されます。そのため、指示や説明の際には、視覚情報を添えるなどの配慮を行うことで困難さが軽減されます。さらに、それぞれの観点を単独で理解するだけでなく、複数の観点を関連付けることで更に詳細な実態を把握することができます。そこで当部では、複数の観点を関連付けて子供たちの学習上の困難を把握し、それに対応した指導･支援の方法を一括して提供する分析パッケージを新たに開発しました。今回は、その中でも「個別理解シート」に焦点を当てて紹介します。

①「ことばを見つけよう」	音読・黙読
②「書き写そう」	視　写
③「見た数を答えよう」	視覚的な短期記憶
④「説明を聞いて答えよう」	聴覚的な言語理解
⑤「何の絵でしょう」	他者理解・状況理解
⑥「形を写そう」	図形の認知
⑦「ひらがなを見つけよう」	注意・集中
⑧「聞いた数を答えよう」	聴覚的な短期記憶

図１　アセスメントシート八つの観点

○「**個別理解シート**」　標準得点が 40 点以下の観点があった場合、推測される学習上の困難さとそれに対応する指導・支援の内容を「個別理解シート」（図２）のコメント欄に自動表示するようにしました。

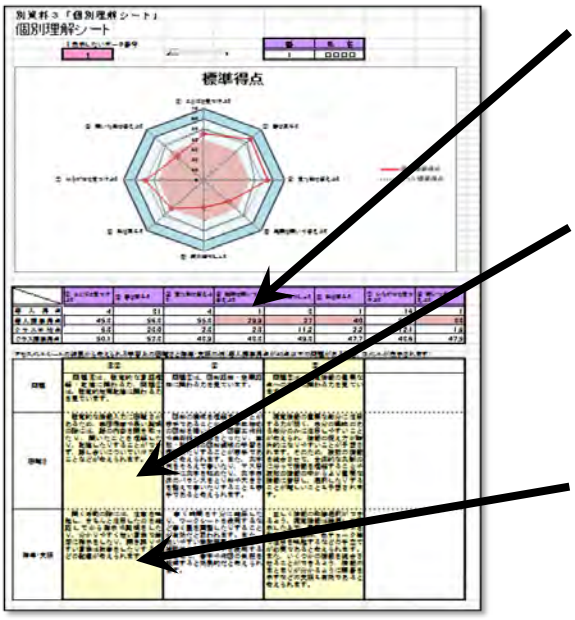


図２「個別理解シート」

左図の子供は、問題④⑧の標準得点が 40 点以下で、配慮を要するという意味の赤色表示がなされています。

問題④⑧の観点を関連付けた推測される学習上の困難さが記述されています。

記述内容：「聴覚的な情報入力に困難さがあるため、集団場面や長い説明の際には、話の内容を聞き取れていなかったり、聞いたことを理解したり、記憶したりすることができず、話し合いについていけなかったりすることなどが予想されます。」

推測される学習上の困難さに対応する指導・支援の例が記述されています。

記述内容：「聞く活動の際には、注意を喚起し、きちんと注目したのを確認してから指示や説明をしたり、分かりやすい言葉で簡潔に指示をしたり、聞き誤りやすい言葉は板書をしたりするなどの配慮が有効であると考えられます。」

通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを進めるに当たって、様々な認知特性を示す子供たちの的確な実態把握ツールとして、ぜひ分析パッケージを御活用ください。ただし、子供の実態把握をする際には、分析パッケージによる実態把握とともに、これまでどおり教員による授業の行動観察を併せて検討し、総合的に実態把握をすることが必要です。その点に留意して、アセスメントシートを活用するようお願いします。分析パッケージの活用を希望する学校には送付します。当センター特別支援教育部まで電話で御連絡ください。【電話番号　0866-56-9106】また、分析パッケージの詳細は、研究紀要第９号を御覧ください。
http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h27/15-05.pdf

（担当・特別支援教育部）

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度第３号（通算254号）
平成28年５月６日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

全ての児童生徒に”情報モラル”の指導を

スマートフォンの所持の低年齢化が進んでいます。スマホを所持していない児童生徒も、パソコンやゲーム機、音楽プレイヤーの使用で、インターネットと接する場面が増えており、今後ますます、全ての校種で取組を進め、全ての児童生徒が情報モラルの指導を受けることが、重要となっています。そのための体制づくりに参考となる研修講座を紹介します。

全校対象

スマホ・ネット問題等情報モラル研修講座

岡山県いじめ問題対策基本方針に示される問題対策の校内支援の一つとして、３年間かけて県内各地区を対象に研修講座を行っています。最新の情報提供や情報モラルやネットいじめの指導についての演習や協議を通して理解を深めていきます。２年目に当たる今年度は、倉敷市、総社市･美咲町･久米南町、高梁市･吉備中央町、特別支援学校を対象に４回の研修を予定しています。

さらに学ぶための研修講座

校内の取組に合わせて御活用ください

授業づくり

ネットリテラシー授業づくり研修講座

7月8日（金）9:30-16:15 岡山県総合教育センター
ネット社会の現状や児童生徒の理解と情報モラル指導のための知識技能の習得を目指します。

校内研修

校内研修で進める情報モラル研修講座

6月24日（金）13:15-16:15 岡山県総合教育センター
情報モラルに関する模擬校内研修を通して、全校的系統的な指導体制づくりを目指します。

リーダー研修

情報モラル教育推進リーダー育成研修講座（３日）

１日目：6月10日（金）9:30-16:15　岡山県総合教育センター
講師：環太平洋大学　平松　茂　特任教授
２日目：6月24日（金）or 7月8日（金）［各自で選択］
9:30-16:15　岡山県総合教育センター
３日目：11月8日（火）9:30-16:15　倉敷情報科学センター

スマホ・ネット問題の解消と未然防止に向けて、地域や学校における情報モラル教育推進の中核となる人材を目指します。児童生徒の現状、自校での取組の見直し、校内研修の立案、研修の運営など、講義や演習を通して広く学びます。

※ このほかにも関連する研修講座があります。各校にお届けする「研修講座案内」を御覧ください。

（担当・情報教育部）

次回の発行は、５月20日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成 28 年度第4号（通算 255 号）
平成 28 年5月 20 日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

障害のある子供たちへの合理的配慮の提供に向けて

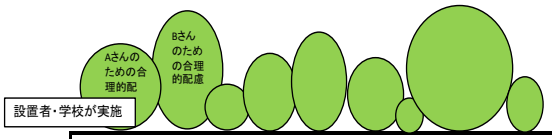
国連の「障害者権利条約」をご存知でしょうか。

この条約は、障害者に関する初めての国際条約で、締約した国は、障害による差別をなくし、教育や雇用等あらゆる分野で障害者に健常者と同じ権利を保障する義務を負うものです。特に教育の分野では、障害者が障害を理由として教育制度一般から排除されないことが示され、我が国も法整備を図り、平成 26 年 1 月に批准しました。

「障害者権利条約」の中で、障害者が排除されない教育や社会の状態をインクルーシブと呼び、我が国の教育に関しては、『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』（平成 24 年 7 月）の中で、「インクルーシブ教育」とは、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている、と説明しています。

今年４月１日には、「障害者差別解消法」が施行され、国・地方公共団体において「合理的配慮」の提供は法的義務となり、教育現場においてもその在り方が重要となっています。

基礎的環境整備と合理的配慮の関係



国、都道府県、市町村による環境整備

①ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
②専門性のある指導体制の確保
③個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
④教材の確保
⑤施設・設備の整備
⑥専門性のある教員・支援員等の人的配置
⑦個に応じた指導や学びの場の設定等による指導
⑧交流及び共同学習

8項目

3観点　11項目

合理的配慮

合理的配慮の基礎となる環境整備（基礎的環境整備）

◎一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じて決定されるもの。よって、実態把握を丁寧に行う必要があります。
◎学校の設置者及び学校と本人及び保護者により、合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましいです。
◎決定された内容は、個別の教育支援計画に明記され、個別の指導計画にも活用されることが望ましいです。
◎決定後も一人一人の発達の程度、適応の状況等を勘案しながら、必要に応じて見直していくことが重要です。

※「合理的配慮」は、「基礎的環境整備」を基に、個別に決定されるものであり、それぞれの学校における「基礎的環境整備」の状況により、提供される「合理的配慮」も異なることとなります。

◎合理的配慮について知りたい方に

「合理的配慮の実践事例」
「インクルーシブ教育システム」

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 NISE National Institute of Special Needs Education

インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）

http://inclusive.nise.go.jp/

「障害者差別解消法と合理的配慮」

http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/469208_3309561_misc.pdf

「合理的配慮」の校内研修
地区研修

岡山県総合教育センター Okayama Prefectural Education Center

学校力向上
サポートキャラバン
「S　合理的配慮等について」

（担当・特別支援教育部）

次回の発行は、６月３日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度第５号（通算256号）
平成28年６月３日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

授業改善の視点としてのアクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(ＡＬ)とは、決して新しい教科でもなければ新しい指導方法でもありません。昨年８月に中央教育審議会教育課程企画特別部会から出された「論点整理」で、ＡＬは授業改善の視点として示されました。

今号では、学びの高度化・深化(受動的な学び方を能動的に、浅い理解を深い理解に)に向けた授業改善の「三つの視点」のポイントと効果的な導入について紹介します。

「三つの視点(論点整理から)」

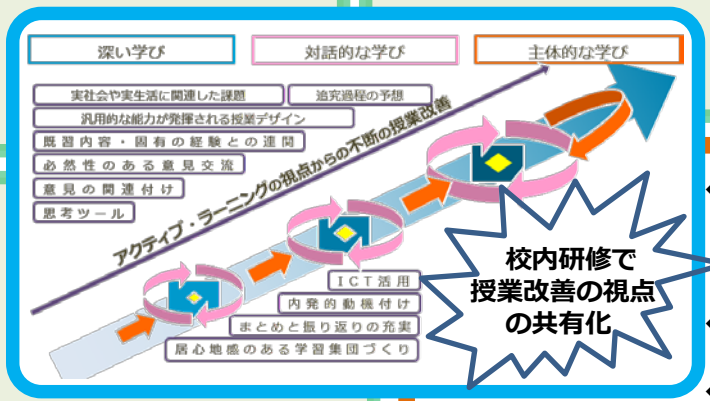
- 深い学び（学習プロセス）
- 対話的な学び（相互作用）
- 主体的な学び（見通し・振り返り）

深い学び

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、児童生徒が問題を発見し、その解決に向けて取り組む。そして、導入・展開・終末の様々な場面で活用・発揮することで学びを深化させる。

対話的な学び

児童生徒が他者との協働や外界との相互作用を通じて、多様な情報を取り込んで整理・分析する。そして、自らの考えを表現することを通して、考えを深める。



主体的な学び

児童生徒が見通しをもって授業に臨み、難しい課題に出会っても粘り強く取り組む。そして、自ら学習活動を振り返ることで、学んだ手ごたえを実感し、次なる学びへつないでいく。

- ◆これまでの優れた取組を生かし、児童生徒がより主体的になるようブラッシュアップしていく。
- ◆教科のねらいに沿って授業をデザインする。
- ◆授業５(ファイブ)に授業改善の三つの視点を重ね合わせる。

効果的な導入

県センターWebページからダウンロードできます。　http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/alpt/index.html

28年度 新設講座

「アクティブ・ラーニング」研修講座　D022101

ふるって御参加ください

日時：**8月3日（水）**9:30-16:15
会場：岡山県総合教育センター

【午前】アクティブ・ラーニングについて（講演）
講師；文部科学省初等中等局教育課程課 教育課程企画室長 **大杉 住子** 先生
【午後】ＡＬ研究協力校実践発表（小中高）、グループ協議・演習 等

次回の発行は、６月17日（金）の予定です。　（担当・教科教育部）

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成28年度　第6号（通算 257 号）
平成28年6月17日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

平成28年度岡山県総合教育センター
夏季研修講座のご案内

夏休みが迫り、研修講座の受講を考えておられる方も大勢おられるのではないでしょうか。そこで、今回の「羅針盤」では、岡山県総合教育センターが開催する夏季研修講座を紹介します。お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

また、校長先生からも、更なる教師力、学校力の向上のために、各学校の課題に応じて、あるいは人材育成の観点から研修講座の受講を具体的に勧めていただければと思います。

キャリアステージに応じた資質能力の向上を図り、職能成長を支援するための新たな研修体系に基づく研修講座

○「若手教員研修」「中堅教員研修」「ミドルリーダー研修」「ベテラン教員研修」「副校長・教頭研修」「校長研修」のキャリアステージに応じた資質能力を図る研修講座

NEW 「平成２８年度研修講座案内」に対象キャリアステージ一覧を掲載しています。ご活用ください。

喫緊の課題や県の教育施策に対応した研修講座

○確かな学力を身に付けさせる教科指導力等の向上を目指した研修講座

○新学習指導要領改訂に向けた新しい学びを推進するための指導力向上を目指した研修講座

○不登校・長期欠席や問題行動への対応及び未然防止の取組に関する研修講座

○特別な支援を必要とする児童生徒に対する実践的指導力向上を目指した研修講座

○教育の情報化推進を目指した研修講座

岡山県総合教育センターは、「晴れの国おかやま生き活きプラン」「第２次岡山県教育振興基本計画」「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針」に基づき、「学び続ける教師」を支え、県全体の教師力・学校力の向上を目指して、研修講座の一層の深化・充実を図っていきます。

研修講座の申込や最新情報については，Ｗｅｂサイトで確認ができます。
URL　http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/

◆今回配信の「夏季研修講座」の中には、申込みが定員に達している講座も含まれています。Ｗｅｂページでご確認ください。

夏季研修講座

●確かな学力を身に付けさせる教科指導力等の向上を目指した研修講座

◆学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善につながる研修講座　＜教科教育部＞

教科等	小学校	中学校	高等学校
国語	8/4・9	8/9・26	8/9・26
社会・地歴公民	8/2・8	7/28・8/2	7/28・8/26
算数・数学	8/26	8/3・26	8/19
理科・生活	理科 8/1・4・5 生活 8/9	7/26・8/4・5	物理 8/5・24　化学 7/26・8/26 生物 7/4・26・8/24 地学 7/26・8/5
体育・保健体育	8/10・17	8/1・2	
図工・芸術	図工 8/2・9・24 音楽 8/16	美術 7/27・8/9・19 音楽 8/16	
外国語		8/8	8/3・8
家庭・技術家庭	7/26・8/2・12	家庭 8/12・19 技術 8/2・19	8/12・19
その他	道徳 8/1・9　特別活動 7/27　総合的な学習の時間 7/27		

満員御礼

●新学習指導要領改訂に向けた新しい学びを推進するための指導力向上を目指した研修講座

＜教科教育部＞　＜情報教育部＞

◆「アクティブ･ラーニング」研修講座（8/3）
◆ＩＣＴ活用で進めるアクティブ･ラーニング授業づくり研修講座（8/23）

満員御礼

●不登校・長期欠席や問題行動への対応及び未然防止の取組に関する研修講座

＜生徒指導部＞

◆いじめ（ネットいじめを含む）の未然防止を考える研修講座（実践生徒指導）（7/6）
◆地域の関係機関等と連携した支援体制づくり研修講座（生徒指導体制パワーアップ）（7/27）
◆教職員が支え合う風土づくり研修講座　（8/１）
◆Ｑ－Ｕ等を活用した学級（HR）集団づくり研修講座（課題別）（8/2）
◆知っておきたい生徒指導上の危機対応を考える研修講座（生徒指導体制パワーアップ）（8/10）
◆不登校・長期欠席からの復帰に向けた支援を考える研修講座（実践生徒指導）（8/22）
◆発達障害の特性理解に基づいた二次障害予防研修講座　（実践生徒指導）（8/23）

満員御礼

夏季研修講座

●特別な支援を必要とする児童生徒に対する実践的指導力向上を目指した研修講座 ＜特別支援教育部＞

◆通級指導教室担当者発達障害研修講座（8/1）
◆発達障害研修講座１～３
　青年期の指導支援（8/5）　特性や合理的配慮（8/9）　実態把握（アセスメント）（8/26）
◆特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり基礎研修講座（8/16）
◆小・中学校知的障害特別支援学級授業力アップ研修講座（8/23）
◆小・中学校自閉症・情緒障害特別支援学級授業力アップ研修講座（7/25）
◆特別支援学校授業づくり研修講座
　教育課程と教科別指導（7/21）　生活単元学習（8/8）　知的障害教育の自立活動（8/22）
◆小・中学校特別支援教育コーディネーター実践研修講座（7/27）
◆就学前特別支援教育研修講座（8/10）
◆訪問教育研修講座（8/2）
◆特別支援学校キャリア教育・就労支援充実研修講座（8/22）
◆寄宿舎指導員研修講座（8/24）

●教育の情報化推進を目指した研修講座 ＜情報教育部＞

◆これからはじまるタブレット端末の授業活用研修講座（Windows編）（7/1）
◆校務に生かすプレゼンテーション研修講座（PowerPoint2013）（7/5）
◆ＩＣＴを活用した会計分野の授業づくり研修講座（商業）（7/6）
◆ネットリテラシー授業づくり研修講座（7/8）
◆特別支援教育の観点におけるＩＣＴ活用研修講座（サテライト）（7/27）
◆情報セキュリティ研修講座（7/28）
◆かんたん絵カード作成で視覚支援入門研修講座（7/29）　満員御礼
◆Webページで情報発信研修講座（ホームページ･ビルダー18、WordPress）（8/1）
◆大きく映して分かりやすく！実物投影機を活用した授業づくり研修講座（8/2）
◆校務に便利な表計算研修講座１～３（Excel2013）
　データ入力･表作成（8/2）　関数･グラフ作成（8/10）　関数･マクロ（8/12）
◆Windowsで簡単！はじめての画像処理研修講座（8/3）
◆教職員と児童生徒のための著作権研修講座（8/4）
◆基礎基本の習熟を！フラッシュ型教材活用研修講座（8/4）
◆デジタル教材を活用した授業づくり研修講座（8/8）
◆校内サーバーの運用・管理研修講座（WindowsServer2012R2）（8/8・9）
◆視覚的で分かりやすい授業づくり研修講座（8/9）
◆メディアとのつきあい方学習研修講座（8/12）
◆はじめての統計処理研修講座（8/19）
◆ＩＣＴを活用した授業改善研修講座（工業）（サテライト）（8/19）
◆校務に便利なデータベース研修講座（Access2013）（8/22）
◆はじめてのビデオ撮影・編集研修講座（VideoStudio X8）（8/25）
◆伝え合う授業でICT活用研修講座－育てよう情報活用能力－（8/26）

※詳しくは、平成28年度岡山県総合教育センター研修講座案内をご覧ください。

＜問合せ先＞

◇教育経営部　TEL　0866-56-9102　FAX　0866-56-9122
◇教科教育部　TEL　0866-56-9103　FAX　0866-56-9123
◇生徒指導部　TEL　0866-56-9105　FAX　0866-56-9125
◇特別支援教育部　TEL　0866-56-9106　FAX　0866-56-9126
◇情報教育部　TEL　0866-56-9107　FAX　0866-56-9127

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成28年度第７号（通算258号）
平成28年７月１日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel(0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

夏休みは、生徒指導の教師力、学校力アップを図るチャンスです！

生徒指導力を高めるためには、教職員一人一人の生徒指導力を向上させるとともに、全ての教職員で指導の方向性を共通理解することが大切です。生徒指導部では校内研修ですぐに使える、五つの校内研修パッケージを開発し、Webで配信しています。この夏休みに、是非、積極的に活用してください。

校内研修パッケージとは

すぐに使える！

「スライド資料（説明原稿）」
「研修資料（提示用）」
「研修資料（配付用）」
「ワークシート」
「事例集」のセットです。

※ **1回の研修時間は、どのパッケージも60分です。**

基礎研修

生徒指導「基礎」パッケージ
協議を通して、生徒指導の基礎を学ぶ

生徒指導「進め方」パッケージ
協議を通して、生徒指導の進め方を学ぶ

課題別研修

いじめ防止パッケージ
事例を通して、
いじめの対応と未然防止について学ぶ

不登校防止パッケージ
事例を通して、
不登校の対応と未然防止について学ぶ

暴力行為防止パッケージ
事例を通して、
暴力行為の対応と未然防止について学ぶ

【校内研修パッケージを実施した学校の声】

様々な年代の先生と話し合うことで、いろいろな方法や考えを知ることができ、今後の指導の参考になりました。自分の日頃の指導を見直すきっかけにもなりました。

教職員同士の共通理解や学校としての指導力を上げるために大切な研修だと思いました。

事例を用いた研修を通して、効果的な指導と再発防止の取組を学ぶことができました。

研修の様子を視聴できます！
動画：約５分
今すぐスマホでCheck!!

全てのファイルのダウンロードはこちらから ➡ http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/seitoshido/digitaltext_2015/index.html

３回実施例

「基礎」パッケージ ＋ 「進め方」パッケージ ＋ いじめ防止パッケージ or 不登校防止パッケージ or 暴力行為防止パッケージ

年３回の実施がお勧めです。

２回実施例：「基礎」パッケージ スライド資料 事前配付 ＋ 「進め方」パッケージ ＋ いじめ防止パッケージ or 不登校防止パッケージ or 暴力行為防止パッケージ

※事前に読んでもらう

１回実施例：「基礎」パッケージ スライド資料 事前配付 ＋ 「進め方」パッケージ スライド資料 事前配付 ＋ いじめ防止パッケージ or 不登校防止パッケージ or 暴力行為防止パッケージ

校内研修の回数に合わせてうまく使えます。

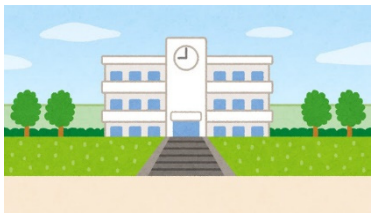
是非夏休みに研修を！

次回の発行は、７月15日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/　（担当・生徒指導部）

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成 28 年度　第8号（通算 259 号）
平成 28 年7月 15 日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121



情報漏えい事故は 学校内？ 学校外！？

“情報漏えい事故”と聞くと、多くの人が学校外での事故をイメージされると思います。しかし、実際には学校内においても多くの情報漏えい事故が発生していることが、右の図１から分かります。（平成 27 年度に国内の学校園・教育機関で発生した情報漏えい事故 159 件のうち、学校内で発生した事故の割合は 40.9%）

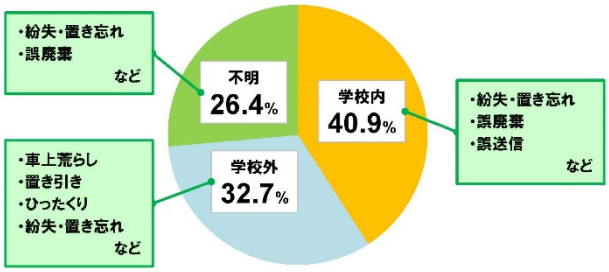


図１

学校外にＵＳＢフラッシュメモリ等を持ち出す場合には、持ち出し申請書の提出や利用簿への記載、暗号化やパスワードの設定といったルールの運用によって、情報セキュリティに対する利用者の意識は自ずと高くなります。しかし、学校内において個人情報を取り扱う場合には、どうでしょうか？

学校外への持ち出しに関するルールはあるが、学校内での利用に関しては明文化されたルールがないという学校もあるのではないでしょうか。

・職員室のパソコンにＵＳＢフラッシュメモリを挿したままにしていたら、いつの間にか見当たらなくなった

・成績を記録した手帳を教室に置き忘れたことに気付き、取りに戻ったが既になくなっていた

これらは実際にあった情報漏えい事故の一例ですが、学校内で日常の業務を行う際にも情報漏えいの危険性は数多く存在します。学校外に情報を持ち出すときだけ気を付ければ良い、という認識は改めましょう。

学校内、学校外、どちらも対策が必要です！

＜参考＞平成 27 年度　成績情報が含まれていた事故の発生比率

◆ **情報漏えい事故の約40%が、成績情報を含むものでした。**

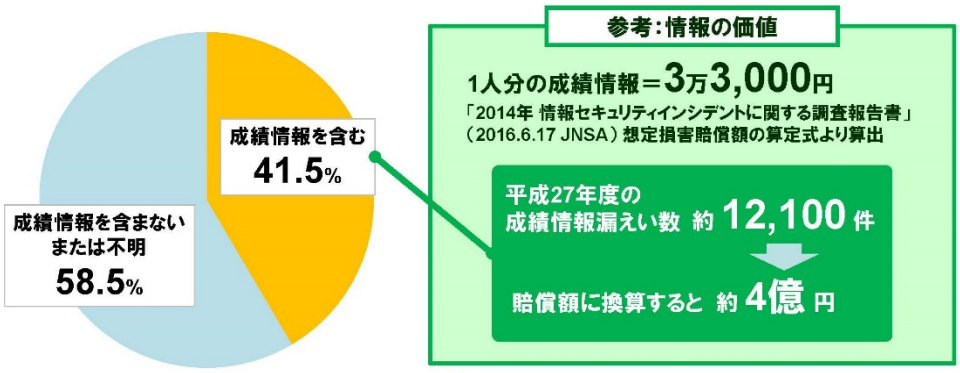


図２

成績情報は児童生徒や保護者にとって、とても大事な意味を持つものです。それだけに情報漏えいが起こった場合に与える影響は計りしれません。取扱いに当たっては、細心の注意を払うようにしましょう。

※　図１・図２　「平成２７年度　学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況　－　調査報告書　－第1版」ＩＳＥＮ　より引用

次回は７月 29 日（金）の発行予定です。　（担当・情報教育部）

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

第9号（通算260号）
平成28年7月29日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

アクティブ・ラーニングで取り組む情報活用能力の育成

情報活用能力調査（平成 25 年、文部科学省）の結果から、児童生徒が複数のウェブサイトを行き来しながら情報を比較し、目的に応じて情報を集めること、複数の収集した情報をいくつかのグループに分類することなどが苦手であることが明らかになりました。では、情報活用能力を育成するために、どのような授業づくりが必要でしょうか。「情報活用能力育成のために」（平成 27 年、文部科学省）に示されている指導改善のポイントの一部を紹介します。

情報活用能力育成のために
必要とされる指導の一例
〇集めた情報の共通点や相違点を意識すること。
〇情報を可視化するために、表や図に整理すること。
〇整理する観点そのものを児童生徒が考えるようにすること。
〇児童生徒自身の経験と資料の中にある情報を区別すること。

情報活用能力育成のために必要とされる指導の例

小学校事例
（3年国語）

単元：「くらしと絵文字」
段落と段落のつながりに気をつけて説明文を読み、
分かりやすい説明の仕方を考えてマークを紹介する説明文を書く

身の回りで見つけたマークをXチャート（4つに分類するための思考ツール）を使い、クラス全体で観点をもとに分類する。
・分類するには、観点が必要であることを意識させる。
・観点をもとに分類し、まとまりごとに名前をつける。

観点をもとに個人で分類する。

最も気に入った分類の観点を選び、選んだ理由を説明する。（全体、グループ）

選んだ理由を説明させる活動から、分類したことがどう役立つのかについての言葉やフレーズを導き出し板書する。
多様な分類の仕方があることに興味を持たせたい。

【21 世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために（平成 27 年3月、文部科学省）を参考に作成】

この事例では、児童生徒が必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力を育むことができます。このような学習活動は、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の視点からの授業改善でも必要になってきます。

ご案内　伝え合う授業でＩＣＴ活用研修講座ー育てよう情報活用能力ー
日時：8月26日（金）9:30-16:15　会場：岡山県総合教育センター
【午前】思考ツールを活用した授業づくりについて（講演・演習）講師：鳴門教育大学　泰山　裕　先生
【午後】タブレット端末・思考ツールを活用した授業づくり演習

（担当・情報教育部）

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成 28 年度第 10 号（通算 261 号）
平成 28 年8月 12 日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

２学期からの学校行事をひとつのきっかけに！

「居場所づくり」と「絆（きずな）づくり」

文化祭（学習発表会）や体育祭（運動会）などの学校行事は、児童生徒が深い絆をつくる大きなチャンスです。計画・準備・本番・振り返り等、様々な場面で、児童生徒が安心して過ごせる「居場所づくり」、自己存在感や充実感を感じられる「居場所づくり」を行いましょう。そして、それらの場面での主体的、共同的な活動を通して児童生徒が「絆づくり」をできる場や機会を準備しましょう。

居場所は教師がつくる

環境整備と雰囲気づくり

- 最初の話し合いの前には、意見を出しやすい雰囲気づくりのためにアイスブレイクを行う。
- 対人関係のトラブルが起きないよう事前にルール（話の聞き方等）を決める。必要に応じてソーシャルスキル教育等でルールを確立する。

児童生徒への支援

- 児童生徒の個性がよりよく生かされるよう、役割分担や活動の際に声かけや助言を行う。
- 活動にうまく入れていない児童生徒に寄り添い、活動の場につなげる。

絆は児童生徒がつくる

（教師は絆づくりのサポートを！）

関わり合う場や時間の保証

- 児童生徒主体で話し合う時間を確保する。
- 準備に与えられた時間や使用できる場所を明確に伝え、計画を立てやすくする。

児童生徒への支援

- 児童生徒の発言を、教師が受け止め、返答するだけでなく、「今の発言はどう思う？」等、他の児童生徒につなげる。
- 児童生徒自らが課題解決できそうな場面では見守り、活動が停滞しているときは、課題を見つめ直すきっかけを与えたり、新たな視点からの見方などの助言を行ったりする。

安全、安心な「居場所」のもとで強くなった児童生徒の「絆」は、以降の学校生活や授業にもよい影響を与えます。行事が終わった後も、係の仕事や清掃活動、学び合いの授業等、様々な教育活動の場で、居場所づくりと絆づくりを進めていきましょう。「学び合いの授業づくりにおける居場所づくりと絆づくり」については、『平成 28 年度 ともに創ろうおかやまの未来ー見て分かる教師ガイドー』p.32，33 が参考になります。

平成28年度 ともに創ろうおかやまの未来 検索

参考資料　国立教育政策研究所　生徒指導リーフ２「『絆づくり』と『居場所』づくり」
国立教育政策研究所　「子どもの社会性が育つ『異年齢の交流活動』」
岡山県総合教育センター（平成 28 年３月）「ともに創ろうおかやまの未来 ー見て分かる教師ガイドー」

（担当・生徒指導部）

次回の発行は、８月２６日（金）の予定です。

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

第11号（通算 262 号）
平成28年8月26日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121
（担当・特別支援教育部）

２学期に向けて

～特別な支援の必要な児童生徒の指導・支援を考える～

夏休みも終わりに近づいてきました。２学期に向けて、学習指導に関すること、集団づくりに関すること、行事に向けて…等、様々な準備に取り組んでおられることでしょう。また、一人一人の児童生徒の力をどう伸ばしていくかといった個に応じた指導の在り方についても考えているところではないでしょうか。特に、特別な支援の必要な児童生徒をどう理解し、２学期からどのように指導・支援をしていけばよいかと悩んでいる方も多いのではないかと思います。

「子供たちが何に困っているのか。」「その困っている要因は何か。」といった実態を捉え直したり、それに基づいて指導・支援を見直したりすることが大切です。１学期に作成した個別の教育支援計画を活用し、今後の指導・支援を考えてみてはどうでしょうか？

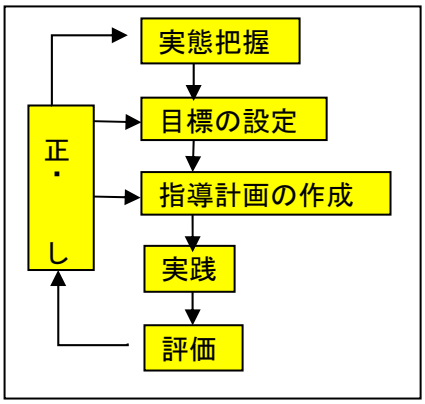
個別の教育支援計画の活用

右の図は、個別の教育支援計画の作成・指導の流れを表しています。この図にあるように、実践を行った後は評価をし、修正・見直しを行うことが大切になってきます。１学期に作成した個別の教育支援計画を見て、次のようなポイントで振り返ってみましょう。

〈子供の達成度〉
- ○　子供の能力にどのような変化がみられたか。
- ○　目標としたスキルの獲得は実現されたか。
- ○　目標がどこまで達成されたか。
- ○　残された課題は何なのか。

〈指導者の指導・支援に対する評価〉
- ○　目標は妥当だったか。
- ○　取り上げる課題の内容は適切だったか。
- ○　課題の順序は適当だったか。
- ○　手だての量や質は適切だったか。

個別の支援計画の作成・指導の流れ



【例えばこんな修正を‥‥】
（短期目標）
授業中に困ったことが起こった際に、
~~担任や支援員に~~自分から助けを求め
担任以外の教師にも
ることができる。（8/26 修正）
※修正前のものが見えるように
　ラインを引いて修正する。

このような振り返りができると…

子供を見ていく際の視点がはっきりし、実態をより詳細に捉えることができる。

２学期の指導の方向性が見え、系統的な指導・支援が可能となる。

※岡山県教育庁特別支援教育課ホームページには、様式例や記入例、留意点等が示されています。是非御参照ください。

http://www.pref.okayama.jp/site/16/423514.html

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度第12号（通算263号）
平成28年９月９日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

道徳の教科化について

学習指導要領改正の経緯　これまでの道徳の時間においては、「いじめなどの現実の問題に対応できていない」「読み物を読んで感想を述べるだけで終わっている」「教科書や評価がないことなどから、他教科に比べて軽視されがち」といった課題がありました。そこで、教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、「道徳の時間」を「特別の教科　道徳（道徳科）」として新たに位置付ける一部改正学習指導要領が平成27年３月に告示されました。

改正の具体的なポイント

「考え、議論する」道徳科への転換

- 目標を明確で理解しやすいものに改善する。
- 内容について、いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善する。内容項目に「親切、思いやり」「規則の尊重」といった手がかりとなる言葉を付記する。
- 問題解決的な学習や体験的な学習など質の高い多様な指導方法を展開する。
- 道徳科に検定教科書を導入する。
- 一人一人の良さを伸ばし、成長を促すための評価を充実する。

小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入して「道徳科」の実施となります。現在は実施可能な移行期間中です。

道徳科における評価の基本的な考え方　評価とは、児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むためのものです。道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、次のようなことが求められます。

- 数値による評価ではなく、記述式とする。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きなまとまりを踏まえた評価とする。
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う。
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視する。
- 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取る。

（平成28年7月22日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議から）

道徳科の評価で、特定の考え方を押し付けたり、入試で使用したりはしません。
　道徳的な価値を自分のこととして捉え、よく考え、議論する道徳へと転換し、特定の考え方に無批判で従うような子供ではなく、主体的に考え未来を切り拓く子供を育てます。

（担当・教科教育部）

次回の発行は、９月23日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度第13号（通算264号）
平成28年９月23日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

小学校英語の早期化　教科化について
～次期学習指導要領に向けたこれまでの審議から～

これまでの成果と課題　現行の学習指導要領から小学５・６年生に「外国語活動」が導入されました。それにより、児童の高い学習意欲、中学生の変容などの成果が認められる一方で、①音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない、②国語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある、③高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、体系的な学習が求められることなどが課題として指摘されています。

次期学習指導要領（平成32年度実施）から小学校英語はこのように変わります！（中教審教育課程企画特別部会　次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ　から　H28．8．26）

小学校英語の早期化　小学３・４年生

○　「外国語活動」として実施
　　年間35単位時間

○　外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高める。

○　「聞く」「話す」の２技能中心に活動する。

小学校英語の教科化　小学５・６年生

○　「教科」として系統的な指導
　　年間70単位時間 ※

○　「聞くこと」「話すこと」の活動に加え、発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を含めた言語活動を展開し、定着を図る。

○　４技能を扱う知識・技能を学ぶ。

※　教科として系統的に学ぶため、効果的な「繰り返し学習」としてモジュール学習も活用

センターでは、早期化 教科化に向けて、次のような取組をしています！

「小学校における『教室英語』」コンテンツ発信（ｅ－ラーニング）

本年３月から「小学校における『教室英語』」の映像の配信を行っています。いつでも誰でもALTの発音を聞きながら、教室英語の学習が手軽にできるようになりました。

【ここにあります！】

岡山県総合教育センターホームページトップページの「e研修所おかやま」→「e研修所おかやま」はこちらから→「ログイン」→「ユーザID（職員番号）」「パスワード（学校コード）」入力し「START」→左欄の「お役たちコンテンツ集」の左側「＋」→「小学校（英語）」→右欄「bh2701」「教室英語」コンテンツ（小学校）→下欄「学習」

© 岡山県「うらっち」

授業づくりをサポート！小学校外国語活動研修講座【サテライト講座】開催

平成29年２月10日（金）13:15-16:30 真庭市立遷喬小学校

講師：山陽学園大学　教授　清水　律子

中・高学年の授業参観や清水先生の演習を通して、授業の充実を図る研修を行います。

© 岡山県「ももっち」

（担当・教科教育部）

次回の発行は、10月７日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成 28 年度第 14 号（通算 265 号）
平成 28 年 10 月 7 日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

全国学力・学習状況調査の結果を授業改善に生かす（小学校国語編）

今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。岡山県の小学校国語に関しては、国語Ａ・Ｂともに全国の平均正答率との差が－0.3 となり、改善状況の見られる結果となりました。そこで、本号では、引き続き授業改善を進めていくために、調査結果から見える課題を踏まえた小学校国語科の指導のポイントについて解説します。今後の授業づくりの参考にしてください。（次号は小学校算数）

調査結果から見える岡山県の課題（小学校国語）
○ローマ字の読み書きや書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することに課題
○目的に応じて質問したいことを整理したり、目的や意図に応じてグラフや表を基に自分の考えを書いたりすることに課題

◆基礎・基本の定着に向けた指導を充実する

「国語Ａ」は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを確かめる問題です。ローマ字の読み書きについては、全ての設問において全国平均を下回りました。また、文章をどのように書き換えればよいのかについての設問でも、全国平均との差が大きく課題が見られました。

●表現の仕方について助言する　A 3

正答率　65.9%（県）　67.4%（全国）　－1.5（差）

自分の書いた文章を相手が読んで理解しやすいかどうかを確かめ、よりよいものに書き直すことが重要です。その際、読み手の立場から文章を客観的に評価した上で、どのように書き換えればよいかを具体的に助言できるようにすることが大切です。

この設問では、学年集会について知らせる文章を書く場面が設定されています。ここでは、学年集会のお知らせの中でも特に「◆ルール説明」の部分について、**どのように書き直すと読み手にとって分かりやすい表現となるか**ということを理解することが求められます。

正答　**選択肢１：まとまりごとに番号を付けるという助言**
選択肢５：一文を短くするという助言

【学年集会のお知らせの下書き】

学年集会のお知らせ

「めざせチャンピオン
じゃんけん列車ゲーム」

５月１２日（木），８時２５分から，
体育館で行います。

◆ルール説明

二人でじゃんけんをして，負けた人は勝った人の後ろにならんで列を作り，勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをし，それを全員が一列になるまでくり返して，最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

〈書き直したルール説明〉

① 二人でじゃんけんをします。
② 負けた人は勝った人の後ろにならび列を作ります。
③ 勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをします。
④ ②，③を全員が一列になるまでくり返します。
⑤ 最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

学習指導のポイント

目的や意図に応じて、表現をよりよくするために助言し合う

〈助言する際の視点の例〉
・書き手の考えが明確に表れているか
・段落相互の関係などが明確であるか
・表現の曖昧さはないか
・読み手が理解しやすいように改善できる部分はないか

このような視点をもつことで、**どのように書き換えたらよいのか、具体的に助言し合うことができる**ようになります。また、自分の考えを深めたり表現の参考にしたりするなど、**読み手の立場から自分の文章を評価することができる**ように指導することも大切です。

裏面に続く

◆必要な情報を取り出し、比較したり関係付けたりしながら自分の考えを明確にする指導を充実する

「国語Ｂ」は、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを確かめる問題です。岡山県では、次の設問に課題が見られました。

●活動報告文を書く〈「早ね早起き朝ごはん」運動〉

Ｂ２二(2)　「高野さんは、「２　課題」を受け、多くの人が取り組めることを考えて「３　解決方法」を書こうとしています。［Ｃ］の中に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。」

＜条件＞

○＜表２＞の結果から考えて書くこと。

○「テレビやゲーム」と「メールなど」の両方の言葉を使って書くこと。

○二十五字以上、五十字以内にまとめて書くこと。

正答率 62.8%（県）　64.2%（全国）　－1.4（差）

＜正答例＞

ねる時こくがおそくならないように、テレビやゲームの時間、メールなどをする時間を決める。

＜誤答例＞

テレビやゲーム、メールなどをした後は、体を動かすようにする。

上記の＜誤答例＞は、〈表２〉の結果から考えられることを書いていません。〈表２〉の結果と、「２　課題」における、「テレビやゲームの時間、メールなどをする時間」について考える必要があるという内容にも着目しながら、課題に対する解決方法を捉える必要があります。

〈表２〉

ねる時刻が２時間以上おそくなる理由は何ですか。（いくつ答えてもかまいません。）（６年１組　11月）

夜おそくまでテレビを見たり，ゲームをしたりしているから。	20人
夜おそくまで友達とメールなどをしているから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくてもいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	４人
その他	７人

学習指導のポイント

目的や意図に応じ、図表やグラフを用いて自分の考えを書くことができるようにする

図表やグラフを用いて自分の考えを書く際には、図表やグラフなどから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり関係付けたりしながら自分の考えを明確にすることが重要です。

具体的には

観察したり、実験したり、調査等を行ったりして得られた結果などの事実を図表やグラフで示し、自分がどのように読み取って分析したのか、そこからどのような考えをもったのかを具体的に記述するような学習が重要になります。

この学習において…

○図表やグラフの何に着目するのか、図表やグラフの中にあるどの数値や言葉を使って書くことが効果的であるのかを検討する必要があります。

○用いた図表やグラフとその分析内容が、自分の考えを明確に伝えるための根拠となっているのかを確かめていくことも大切です。

お知らせ

岡山県総合教育センター教科教育部では、全国学力・学習状況調査の結果を活用した指導改善に向けて、「子どもの学びを支えるヒント集」を作成しています。ヒント集に対応した校内研修パッケージも用意していますので、各校の指導改善の計画立案の際に、ぜひご活用ください。
http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h27/15-02.pdf

次回の発行は、10 月 21 日（金）の予定です。　（担当・教科教育部）

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成 28 年度第１５号（通算 266 号）
平成 28 年 10 月 21 日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

全国学力・学習状況調査の結果を授業改善に生かす（小学校算数編）

今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。岡山県の小学校算数に関しては、全国の平均正答率との差が「算数Ａ」は－0.4、「算数Ｂ」は＋0.1 で改善が見られました。

そこで、本号では、引き続き授業改善を進めていくために、調査結果から見える課題を踏まえた小学校算数科の指導のポイントについて解説します。今後の授業づくりの参考にしてください。

調査結果から見える岡山県の課題（小学校算数）

○**割合の意味（基準量、比較量、割合の関係）を理解することに課題**

○**示された除法の式と構成された形を関連付け、式の意味の説明を記述することに課題**

◆基礎・基本の定着に向けた指導を充実する

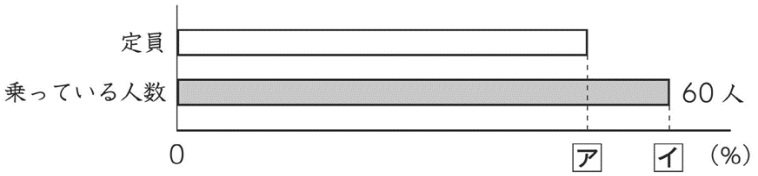
「算数Ａ」は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを確かめる問題です。

岡山県では、１を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる設問Ａ9(2)で、全国平均との差が大きく課題が見られました。

●定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く

A9(2)　**正答率 44.5%（県）　50.9%（全国）　－6.4（差）**

バスに乗っている人数は 60 人です。乗っている人数は、定員よりも定員の 20%分多いそうです。定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を、百分率を使った次の図に表します。



図の中のアとイには、次の４つの数のいずれかが入ります。アとイに入る数をそれぞれ書きましょう。

20	80	100	120

<正答>
ア100、イ120

<誤答例>
ア80、イ100 と解答した反応率が 13.2%（基準量を誤って捉えている）

学習指導のポイント

基準量と比較量の関係を正しく捉えることができるようにする

指導に当たっては、基準量と比較量の関係を数直線などを用いて捉える場面を設けることが考えられます。その際、問題場面を数直線などに表現する手続きを覚えるのではなく、問題場面がどのようなことを表しているのかを理解し、そのイメージを数直線などを用いて表現することを大切にしていくことが必要です。

裏面に続く

◆事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりする指導を充実する

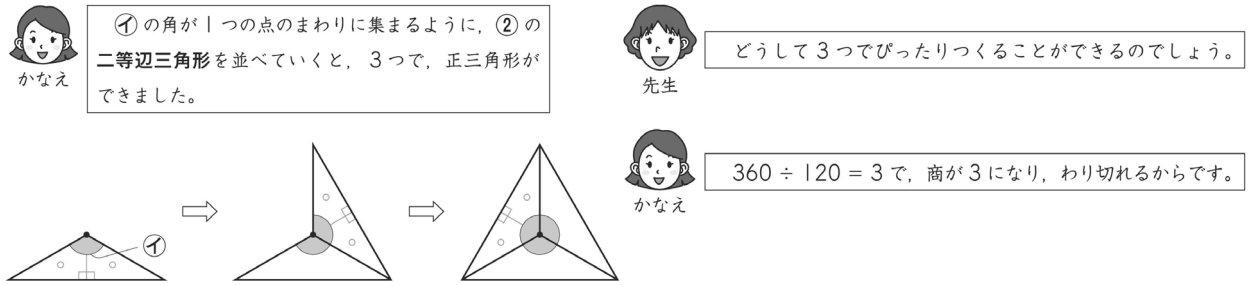
「算数Ｂ」は、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを確かめる問題です。

岡山県では、示された除法の式と構成された形を関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することができるかどうかをみる設問Ｂ5(1)で、正答率が大変低く課題が見られました。

●示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く

Ｂ5(1)　正答率 6.1%（県）　6.8%（全国）　－0.8（差）

三角定規２枚を使って、同じ長さの辺をあわせて、①正三角形、②二等辺三角形、③四角形の３種類の図形をつくりました。



360÷120 は、どのようなことを計算している式ですか。言葉と数を使って書きましょう。その際、「360」と「120」が何を表しているかがわかるようにして書きましょう。

＜正答例＞

「360 は、１回転した角の大きさを表しています。120 は、イの角の大きさを表しています。
360÷120 は、360°の角の中に、120°の角がいくつ入るかを計算している式です。」

＜正答の条件＞

次の①、②、③の全てを書いている。

① 360 が、１回転した角の大きさを表していること
② 120 が、イの角の大きさを表していること
③ 被除数は除数の幾つ分かを計算している式であること

＜誤答例＞

「360 は、１回転した角の大きさです。120 はイの角の大きさです。」　反応率 21.7%
（被除数は除数の幾つ分かを計算している式であることを記述することはできていない）

学習指導のポイント

図形と式を関連付けて、式の意味を説明することができるようにする

指導に当たっては、例えば、設問Ｂ5(1)の場面を基に、かなえさんの「360÷120＝３」の式と図のみを提示し、「図の中のどの角のことですか。」などと問いかけ、１回転の角の大きさと同じ大きさであることや、二等辺三角形のイの角の大きさであることを解釈し説明し合う場を設けることが考えられます。その際、360 を 120 でわる理由について、図形と式を関連付けながら、360°の中に二等辺三角形のイの角が何個入るかを求めるために除法を用いていることを明らかにしていくことが必要です。

全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考になるよう、国立教育政策研究所が「授業アイディア例」を作成し、各学校に配布しています。児童の学習状況の改善につながるように「授業アイディア例」を日々の授業や研修会などで活用してみましょう。

次回の発行は、11 月４日（金）の予定です。　（担当・教科教育部）

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成28年度　第16号（通算267号）
平成28年11月4日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

『学び続ける教員のための OJT ガイドブック「関わり合い」で創るすてきな学校』活用シリーズⅠ

学校力向上につながる校内チーム制

近年、ベテラン教員の大量退職や、若手教員の大量採用、ミドルリーダーとなるべき年齢層の教員が少なくなる等、教員の経験年数のバランスが崩れ始めていることから、若手教員の育成とミドルリーダーの育成、ベテラン教員の確実な指導技術の伝承が喫緊の課題となっています。

岡山県教育委員会では、平成 28 年３月に「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針」を策定し、若手教員と先輩教員が共に育つことができるようなＯＪＴシステム（校内チーム制）の構築を打ち出しました。これに連動してセンターでは、「校内チーム制」について提案したガイドブックを作成しました。今号では校内チーム制実施の方針を紹介します。（平成 28 年３月 30 日付 教高指第 849 号 参照）

http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h27/15-01.pdf　からダウンロードできます。

「関わり合い」

教員が自分や学校の課題解決に向け、自律的、主体的に同僚と学び合い高め合うこと。

〈校内チーム制実施の方針〉

①若手教員と先輩教員が「関わり合い」ながら、共に育つ「校内チーム制」を整備。

②スーパーバイザー（管理職等）を校内に配置（学校全体の課題解決に結びつくよう助言や調整）。
- 管理職等が発揮するリーダーシップは次の三つが中心となる。
  知識や情報のマネジメントにおけるリーダーシップ
  人のマネジメントにおけるリーダーシップ
  時間のマネジメントにおけるリーダーシップ

③コーディネーター（指導教諭等）を校内に配置（若手教員と先輩教員によるＯＪＴチーム研修を実施）。
- ＯＪＴチームのニーズや課題等を把握しながら、意図的・計画的・継続的にＯＪＴチーム研修が進むよう調整する。

④チーム編成（若手の講師及び経験年数別研修受講者全員に加えて、他の教員も学校の実情に応じて編成）。
- ミドルリーダーを中心としながら様々な教員が相互に「関わり合う」よう、意図的に組み合わせる。

⑤既存の取組の活用可。

⑥ＯＪＴとＯｆｆ－ＪＴのさらなる連動。
- ＯＪＴチームのメンバーに経験年数別研修受講者を当てることで、Ｏｆｆ－ＪＴで学んだ知識や技能、共に学ぶための手法等をＯＪＴチーム研修に取り入れることができる（理論と実践の往還）。

〈学校力向上につながるＯＪＴの在り方（五つの提言）〉

（１）学校教育目標の達成を意識する。
（２）個人と組織の双方の成長を促す。
（３）ミドルリーダーの資質能力を伸ばす。
（４）若手教員の主体性を引き出す。
（５）学校の実情に合わせた実効性のあるＯＪＴにする。

若手教員と先輩教員が共に育ち、学び合い、高め合う体制を整備し、校内で組織的な人材育成の推進を強化することによって、教員の指導力や学校力の向上に資すると考えます。

『学び続ける教員のためのＯＪＴガイドブック「関わり合い」で創るすてきな学校』活用シリーズⅡ（11 月 18 日（金）発行）では、「校内チーム制の進め方」について紹介します。（担当・教育経営部）

※次号の発行は１１／１８（金）の予定です。

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより
羅針盤

平成28年度 号外
平成28年11月11日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

平成29年2月19日開催決定!!

【お知らせ】

開所１０周年記念式典・記念講演会
及び平成２８年度教育研究発表大会

日　時　　平成２９年２月１９日（日）９：30～16：１５
会　場　　岡山県総合教育センター
日　程

©岡山県「ももっち」「うらっち」

9：00	受付開始
9：30	開所10周年記念式典
10：10	開所10周年記念講演会 「次期学習指導要領における教育の方向性 ～アクティブ・ラーニングの視点による不断の授業改善～」 文部科学省初等中等教育局視学官　田村　学　先生
11：40	○展示鑑賞（昼食・休憩） ・研修講座及び学校支援等の展示（センター事業紹介）、教育資料等の展示、模擬体験講座 ・教育研究「図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における鑑賞教育の充実を目指して」（教科教育部、最終報告）の展示 ・岡山県の教育施策等に関する展示、国の動向に関する展示　等
13：00	教育研究発表大会開会行事
13：25	教育研究発表 ○所員の発表 ・理科の授業づくりに関する研究　（教科教育部、最終報告） ・生徒指導校内研修パッケージの開発に関する研究　（生徒指導部、中間報告） ・通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究 （特別支援教育部、最終報告） ・情報モラルに関する研究　（情報教育部、中間報告） ○長期研修員の発表 ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善を図る校内研修パッケージの開発 （小学校、理科） ・「学びに向かう力」を育成する国語指導のあり方　（中学校、国語） ・情報活用の実践力を育成する指導法の一考察　（高等学校、情報教育） ※所員、長期研修員の研究テーマは仮題です。変更される可能性があります。
16：15	閉会

申込み　　申込み方法等、詳細につきましては【御案内】（12月配付予定）で御連絡いたします。今しばらく、お待ちください。

（担当・教育研究発表大会係）

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成28年度　第17号(通算268号)
平成28年11月18日(金)　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

「学び続ける教員のための OJT ガイドブック『関わり合い』で創るすてきな学校」活用シリーズⅡ

学校力向上を推進する校内チーム制

前号のシリーズⅠ（11 月4日（金）発行）では校内チーム制実施の方針について紹介しました。今号では、校内チーム制の進め方について紹介します。

〈校内チーム制の進め方のポイント〉 ※『ガイドブック』(p6～p11）参照

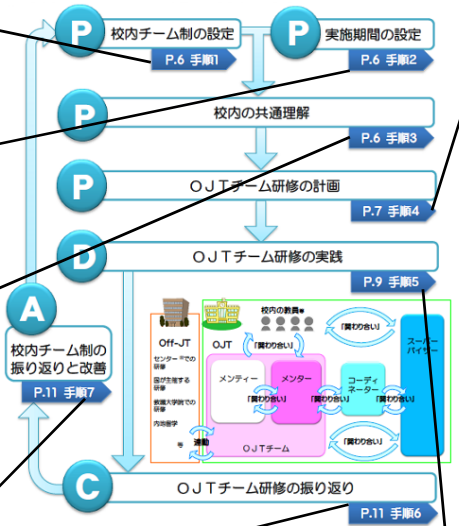
【手順１】
校長を中心として、自校の実情にあわせて役割や対象者等を決める。

【手順２】
目標を達成するために必要な期間を定める。

【手順３】
今後の進め方等について、共通理解を図る。

【手順７】
学校全体で校内チーム制の振り返りを行い、継続した取組にする。

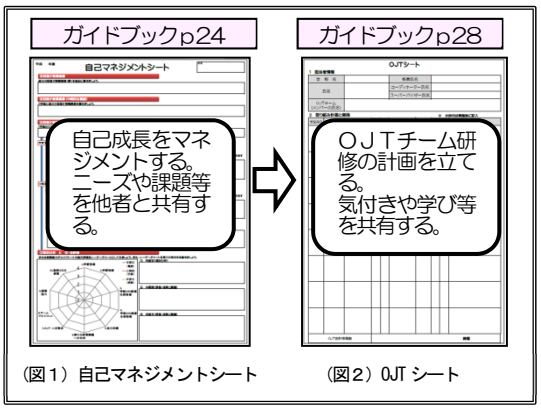
【手順６】
個人とチームの両面から教師力の向上、学校力向上について成果と課題を整理する。



【手順４】
メンティーは、自分のニーズや課題等を把握し整理するために自己マネジメントシート（図１）を記入する。メンターは、役割（ガイドブック p32）を確認する。（自己マネジメントシートの活用も有効）

ニーズや課題等を基に、OJT シート(図２）を活用し研修の計画を立てる。

【手順５】
OJT シートを活用し、気付きや学び等を共有しながら実施する。

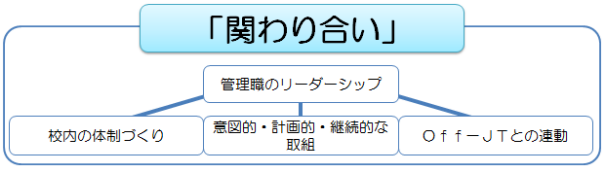


（図１）自己マネジメントシート　（図２）OJT シート

〈「関わり合い」を機能させるために〉

校内チーム制のキーワードは「関わり合い」です。「関わり合い」を機能させるためには、次の四つのポイントがあります。

１　管理職のリーダーシップ
- チームのメンバーが主体的に参加し、自由な雰囲気の中で議論が進められるようにする。
- 教員一人一人の現在の資質能力や、今後伸ばす必要がある資質能力を踏まえ、人選や助言等を行う。
- 限られた時間を有効に活用し、個人や学校の課題に対する方策等を導き出せるようにする。



「関わり合い」を機能させる四つのポイント

２　校内の体制づくり
- OJT チームは、一度に複数の教員が共に学び合えるようメンティーとメンターを複数対複数にする。
- スーパーバイザーやコーディネーターを配置し、取組が学校の課題解決に結び付くよう助言や調整を行う。
- 「関わり合い」の中心にミドルリーダーを当てる。他の教員等も校内チーム制に「関わり合う」ようにする。

３　意図的・計画的・継続的な取組
- 様々な教員が相互に「関わり合う」よう意図的に組み合わせる。
- OJT チームのメンバーのニーズや課題等に対応した計画の立案、実施、振り返りをする。

４　Off－JT との連動
- OJT チーム研修とOff－JT（センターでの研修等）を連動させ、理論と実践とを往還させる。

『学び続ける教員のための OJT ガイドブック「関わり合い」で創るすてきな学校』活用シリーズⅢ（１２月２日（金）発行）では、「OJT 実践校の取組例」について紹介します。（担当・教育経営部）

※次号の発行は１２／２（金）の予定です。【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

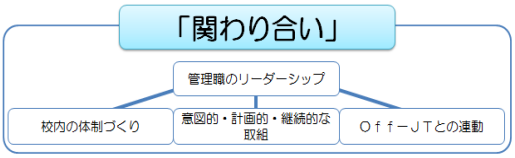
羅針盤

平成28年度　第18号（通算269号）
平成28年12月2日（金）　発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

『学び続ける教員のための OJT ガイドブック「関わり合い」で創るすてきな学校』活用シリーズⅢ

学校力向上につながるＯＪＴ　～実践事例紹介～

本シリーズⅠ（11 月 4 日(金)発行）では校内チーム制実施の方針について、本シリーズⅡ（11 月 18 日(金)発行）では校内チーム制の進め方について紹介しました。本シリーズ最終回の今号では、昨年度の OJT 研究協力校である、早島町立早島中学校の取組事例を紹介します。校内チーム制の取組の推進には、「関わり合い」を機能させる四つのポイントの一つである、管理職のリーダーシップが重要です。早島中学校では、管理職が学校の実情を踏まえながら、先を見通して、意図的に仕掛けていったことが成果につながっています。



「関わり合い」を機能させる四つのポイント

～早島町立早島中学校の取組～

■学校の実態を踏まえた、見通しをもった意図的な仕掛け
【前半】学校行事に焦点化し、教職員同士で目標の共有化や協働文化を醸成
⇩
【後半】授業改善をテーマにしたＯＪＴにシフト

■学校教育目標の達成を意識
・教職員一人一人の育成を図るだけではなく、学校教育目標の達成を意識し、学校力の向上につなげることを最終目標として実施

■「関わり合い」を深める校内体制づくりの工夫
・学年や教科を越えて「関わり合う」ことができる意図的なチーム編制
・学び合い高め合いを促進するための授業（学校行事に向けた取組）参観の設定
・ＯＪＴチーム研修が円滑に進むように、各チームにスーパーバイザーとコーディネーターを配置

【OJT１チームの構成】
スーパーバイザー　１人
コーディネーター　１人
メンター　２～３人
メンティー　４人
※縦割り編制で３チーム

■教職員の意欲を高める工夫
・教職員の学び合う姿を生徒や保護者に紹介、校長室ＢＬＯＧで発信

～成果～
・学校行事や学習指導等のノウハウが伝承され、多くの教職員が自身のスキルとして獲得
・若手教職員の成長だけでなく、ミドルリーダーやベテランにも新たな気付きや学び
・メンターとメンティーのクラスで合同授業（学校行事に向けた取組）を行うことにより、教員同士の学び合いに加えて、学年を越えた生徒同士の学び合いへ発展
・学び合う協働文化の広がり（メンターから教職員の共通理解促進を図る提案）
・学年等の枠にとらわれない、気軽に相談し合える雰囲気の広がり

～課題～
・チーム間において情報をスムーズに共有できるような仕組みづくり

〈学校力向上につながるＯＪＴの在り方（五つの提言）〉

（１）学校教育目標の達成を意識する　（２）個人と組織の双方の成長を促す
（３）ミドルリーダーの資質能力を伸ばす　（４）若手教員の主体性を引き出す
（５）学校の実情に合わせた実効性のあるＯＪＴにする

「教育時報」平成２９年３月号において、「学校力向上につながるＯＪＴ　－『関わり合い』で創るすてきな学校―」を特集として、さらに詳しく実践事例等を紹介する予定です。　（担当・教育経営部）

※次号の発行は１２／１６（金）の予定です。

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

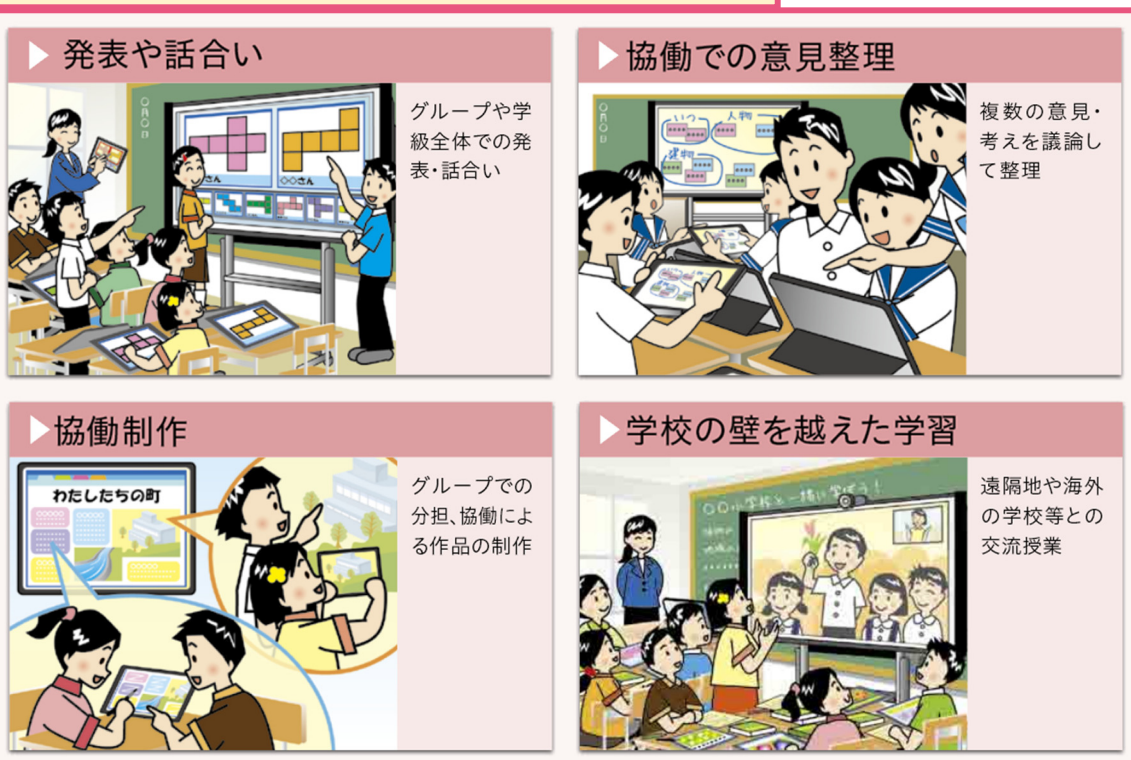
羅針盤

第 19 号（通算 270 号）
平成 28 年 12 月 16 日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

タブレット型端末の活用

「第２期教育振興基本計画」（平成 25 年６月 14 日閣議決定）では、良質で質の高い学びを実現する教育環境の整備として、タブレット型端末等の、設置場所を限定しない可動式コンピュータ 40 台を各校に整備することを目標としています。タブレット型端末は、授業中にグループ学習などで班に１台で使用したり、児童生徒１人１台で使用したりするなど、利用目的に応じて、様々な利用形態が考えられます。例えば、協働学習の場面では、次のような利用形態が考えられます。

協働学習の場面でのタブレット型端末の活用



引用　文部科学省「ICT を活用した指導方法～学びのイノベーション事業実証研究報告書～」

タブレット型端末等を活用して、子どもたちが自分の調べた内容を他者のものと比較吟味しながら課題を解決したり、考えを他者に分かりやすく説明したりする中で自らの理解を深めていくことができます。また、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において、子ども同士による意見交換、発表など互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することも可能となります。

御案内

平成 28 年 12 月 26 日（月）

知っておきたいＩＣＴ機器・ソフト研修講座

講演「教科指導におけるＩＣＴ活用について」　日本教育情報化振興会会長 赤堀侃司 先生

タブレット型端末の活用とプログラミング教育について体験・模擬授業もあります。ふるって御参加ください！

（担当・情報教育部）

次回の発行は、１月６日（金）の予定です。

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度 第20号（通算271号）
平成29年１月６日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり

特別支援教育の観点を取り入れた授業の目指すところは、学級の全ての子供たちが、「分かった！」「できた！」という喜びを実感できることです。その授業づくりの第一歩は、子供たちの実態を把握することから始まります。実態把握に基づいて、支援を考えていくことになります。例えば、「この子は授業中きょろきょろしていて、集中することが難しいな」「でも、絵や図はよく見ているから、大事なことは掲示物にして黒板に貼るのがいいかな」というように支援を考えていきます。

しかし、実態把握が重要であることは分かっているけれど、自分一人の行動観察だけでは、根拠もないし自信がない…という先生もおられるのではないでしょうか。そういうときには、当センターの特別支援教育部が作成した「アセスメント分析パッケージ」をお勧めします！！（詳細については、平成28年度第2号の羅針盤を参照してください。）

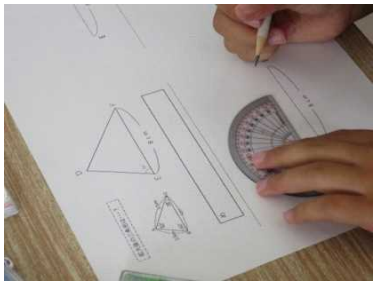
今回は、アセスメント分析パッケージを活用している小学校、中学校の実践の一部を紹介します。

小学校

A小学校では、アセスメントシートやプレテストの結果、行動観察等から**多面的に**児童の実態を把握して、授業づくりを行いました。

例えば、アセスメントシートの結果から、学級全体として聞いて理解することや記憶することに困難さがあることが分かったので、「これから大事なことを言うよ」と前置きしてから話したり、活動が停滞している児童に、個別に再度声をかけたりする支援を行いました。

このように、**実態に合った支援を行う**ことで、児童が生き生きと学習に取り組む姿が見られるようになりました。



書く量や情報量を調節したワークシート

中学校

B中学校の校内研修では、授業を参観し合った際の生徒の行動観察とアセスメントシートの結果を活用して、生徒の実態把握を行いました。**複数の視点**から学級や気になる生徒の実態を把握することができたので、支援に結び付けやすくなりました。また、支援を考える際には、アセスメントシート分析パッケージで表示される支援内容が、大変参考になったようです。学級や個人にどのような困難さがあり、どのような支援をするのかを**共通理解**したことで、どの授業においても同じような支援を行うことができるようになりました。

生徒の実態や支援を考える校内研修の様子

ここでは、紹介しきれない具体については、平成28年度教育研究発表大会で発表しますので、ぜひ御参加ください。お待ちしております。

平成29年2月19日（日）
岡山県総合教育センター開所10周年記念式典・記念講演会及び平成28年度教育研究発表大会
☆教育研究発表Ⅰ（13：25～14：25）
「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究」

（担当・特別支援教育部）

岡山県総合教育センターだより

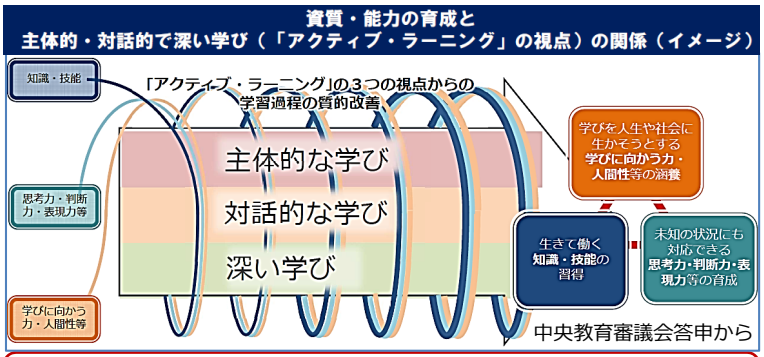
羅針盤

平成28年度第21号（通算272号）
平成29年１月20日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

子供たちに「主体的・対話的で深い学び」を①

昨年１２月２１日、中央教育審議会答申が出されました。この中で、「アクティブ・ラーニング」については、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために共有すべき授業改善の視点として明確に示されました。

羅針盤では、連続３回シリーズで授業改善の三つの視点(「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」)について解説するとともに、実践事例等を紹介します。第１回目は、「主体的な学び」についてです。



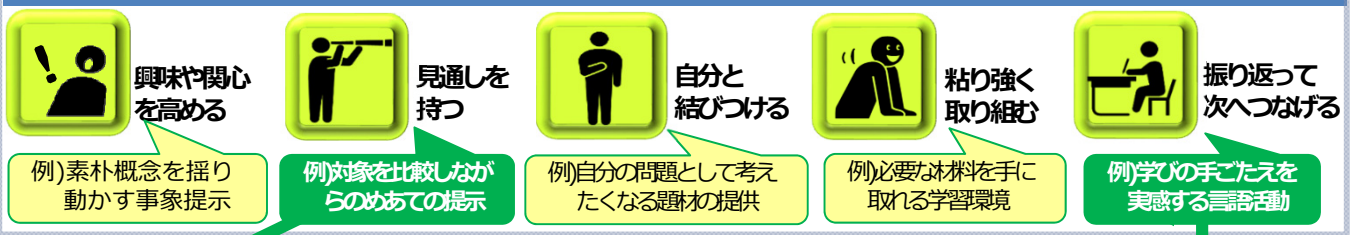
ポイント　「主体的・対話的で深い学び」は、１単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で実現されていくことが求められます。

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。　中央教育審議会答申から　※下線：岡山県総合教育センター

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

「主体的な学び」を実現する子どもの姿(イメージ)　(独)教員研修センター次世代型教育推進センター作成資料から

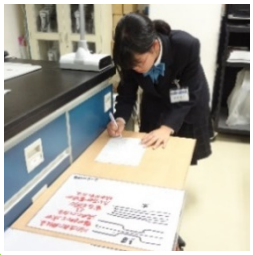


導入の実践例　中２理科「電流の性質」(導線の太さと電力の関係性を見い出す)

◆課題と実験方法を知る場面で、教師は、消費電力の異なる２つの電球を点す演示を行った。その際、フィラメントの太さを比較させながら電力との関係について既習事項を想起させた。
◆生徒からは、電流や電圧の性質及び抵抗の関係に気付く発言やつぶやきが見られ、教師はそれらをつなぎながら、本時のめあてとして示した。その後、生徒は見通しを持ち意欲的に活動を行った。

振り返りの実践例

◆単元を通した学びを振り返らせるために、教師は、「新しく気付いたこと」「友達の意見で学んだこと」「今後の学習に生かしたいこと」等、振り返りの視点を示し、記述後に共有を図った。
◆生徒の記述は、「導線の太さによって電力の値が変わることが分かった」、「友達と意見を出し合いながらまとめていくことで考えが深まった」「モデル実験の結果とこれまでの学習を関連させて考察する方法を次の学習でも使ってみたい」等、学びの手ごたえが表れていた。



２月19日(日) 岡山県総合教育センター　開所１０周年記念講演会
講師 文部科学省初等中等局視学官　田村 学 先生
演題「次期学習指導要領における教育の方向性
～アクティブ・ラーニングの視点による不断の授業改善～」

申し込みは県センターWebページから

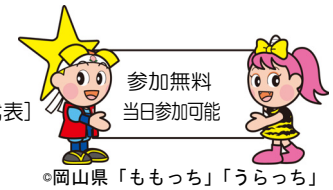
次回の発行は、２月３日（金）の予定です。　（担当・教科教育部）
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより
羅針盤

平成28年度　第22号（通算273号）
平成29年２月３日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel（0866)56-9101 Fax（0866)56-9121

岡山県総合教育センター
開所１０周年記念式典・記念講演会
及び平成２８年度教育研究発表大会

日　時　　平成２９年２月１９日（日）　９：30～16：10
会　場　　岡山県総合教育センター
〒716-1241　岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL（0866）56-9101[代表] FAX（0866）56-9121[代表]
Webページ　http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/



©岡山県「ももっち」「うらっち」

開所１０周年記念式典・記念講演会

演　題　「次期学習指導要領における教育の方向性
　　～アクティブ・ラーニングの視点による不断の授業改善～」
講　師　文部科学省初等中等教育局視学官　田村　学　先生

開会行事

・基調提案

所員の研究発表

○児童生徒の学力向上に関わる研究
○特別支援教育の推進に関わる研究
○問題行動等への対応に関わる研究

長期研修員の発表

○理科（小学校）
○国語（中学校）
○情報教育（高等学校）

皆様のご参加をお待ちしております。

展示や演示

・研修講座及び学校支援等の展示
・岡山県の教育施策等に関する展示
・模擬体験講座　　等

詳しい案内はこちら→
をご覧ください。

問合せ先
（開所１０周年記念式典・記念講演会：志摩）
（教育研究発表大会：赤木）

※　写真は全て昨年度の大会の様子です。

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センター

開所１０周年記念講演会

演　題

「次期学習指導要領における教育の方向性
～アクティブ・ラーニングの視点による
不断の授業改善～」

講　師

文部科学省初等中等教育局視学官　田村　学　先生

［田村　学　先生プロフィール］

上越市立大手町小学校、上越教育大学附属小学校で生活科・総合的な学習の時間を実践、カリキュラム研究に取り組む。平成17年4月より、生活科・総合的な学習の時間担当の調査官。平成27年より、現職。日本生活科・総合的学習教育学会常任理事。主な著書「いのちを育てる総合学習」（童心社）、「今日的学力をつくる新しい生活科授業づくり」（明治図書）、「これからの生活・総合」（東洋館）、「幼稚園・保育所と小学校との連携ポイント」（ぎょうせい）、「総合の新しい授業アイディア」（ぎょうせい）、「イラストで見る　全単元・全授業のすべて」（東洋館）、「思考ツールの授業」（小学館）、「新教科誕生の軌跡」（東洋館）、「授業を磨く」（東洋館）、「生活･総合アクティブ･ラーニング」（東洋館）など。

日　時　　平成２９年２月１９日（日）　１０：１０～１１：４０

（９：３０～　開所10周年記念式典　　１３：００～　教育研究発表大会）

会　場　　岡山県総合教育センター

〒716-1241　岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL（0866）56-9101[代表]　　FAX（0866）56-9121[代表]

Webページ　http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/

申込み　　申込み方法等、詳細については、こちらをご覧ください。→

問合せ　　岡山県総合教育センター　TEL（0866）56-9101（代表）

（開所１０周年記念講演会・志摩）

皆様のご参加をお待ちしております。

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度第23号（通算274号）
平成29年２月３日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

子供たちに「主体的・対話的で深い学び」を ②

前号では、アクティブ・ラーニングにおける「主体的な学び」について解説するとともに、実践事例等を紹介しました。第２回目は、「対話的な学び」についてです。

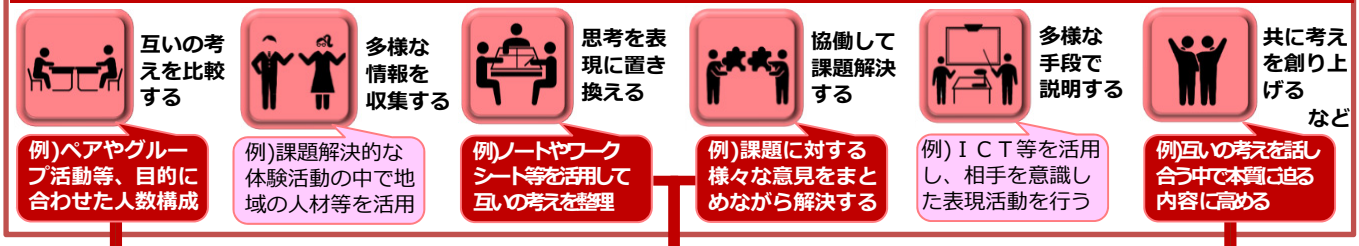
対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

中央教育審議会答申から　※下線：岡山県総合教育センター

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

「対話的な学び」を実現する子どもの姿(イメージ)　(独)教員研修センター次世代型教育推進センター作成資料より



実践例　小３国語「ゆうすげ村の小さな旅館」

教師は、児童の感想から作った読みのめあてを掲示し、確認した上でペアで意見を交流させた。児童は、読みのめあてに沿って登場人物の性格や気持ちの変化について想像し、互いの考えの共通点や相違点を比較しながら読みを深めることができた。

実践例　中3理科「電解質の水溶液の中で起こる変化」

教師は、目に見えないイオンの移動により電極に物質が発生する理由をホワイトボードとマグネット板を介して話し合わせた。生徒は、個人で予想したことと実験結果を関連付けながら話し合う活動を通して、イオンの移動を理解することができた。

ポイント

単にペアやグループ活動を取り入れただけでは「活動あって学びなし」になりがちです。その活動を通して、どのような資質・能力を育成したいのか、目的を明らかにし、活動に必然性をもたせることが大切です。

実践例　小６総合的な学習「土師の里探検隊」

児童は、古墳について調べたことを基に、誰に何を伝えたいかを考え、相手に伝える方法を短い言葉で付箋に書き出して、可視化・操作化を行った。教師は、各グループの意見をコーディネートしながら、「地域に発信するための効果的な方法は」と投げかけ、課題解決に向けての対話に導いた。

ポイント

授業を参観する際は、子供の学びの姿をもとに、教師の手立てが有効であったかどうかを見取るようにしましょう。

２月19日(日) 岡山県総合教育センター開所１０周年記念講演会
文部科学省初等中等教育局視学官　田村 学 先生による記念講演開催!!
2/8(水)申込み〆切

次回の発行は、２月17日（金）の予定です。　（担当・教科教育部）

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

岡山県総合教育センターだより

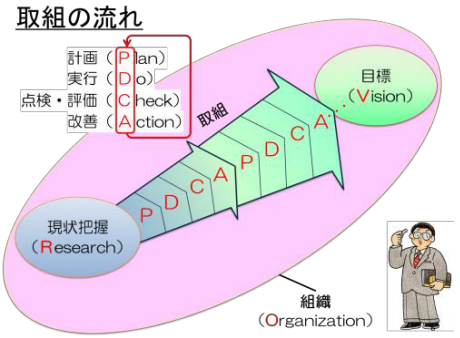
羅針盤

平成28年度第24号（通算275号）
平成29年2月17日（金） 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

組織的な生徒指導力を高めるために
～平成29年度に向けて生徒指導『校内研修パッケージ』活用のススメ～

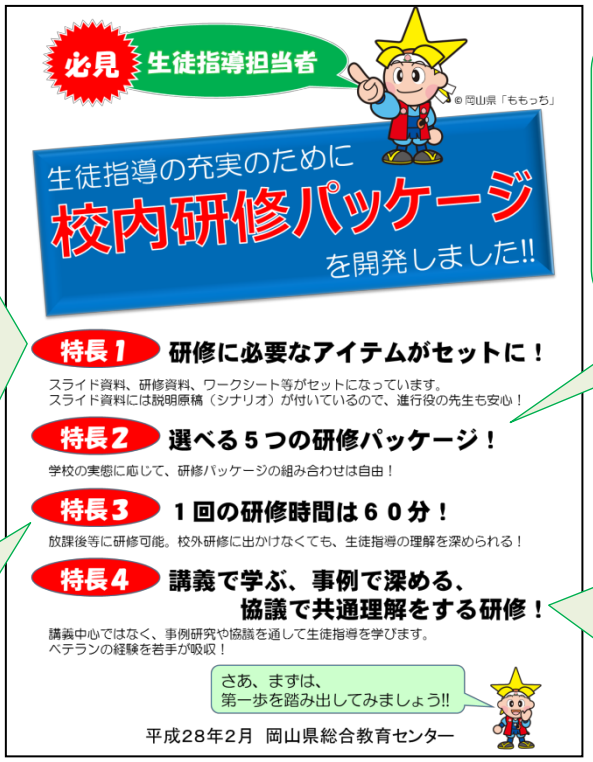
２月も中盤を迎えました。この時期は各分掌において今年度の教育活動の振り返りが行われ、職員会議等での共通理解を基に、次年度の教育実践に向けた提案が行われているのではないでしょうか。（右図「PDCAサイクル」参照）

生徒指導実践においても同様に振り返りや次年度への提案が行われると思います。そこで、児童生徒のよりよい成長に向けた改善策の一つとして、生徒指導の充実を目指して開発された『校内研修パッケージ』を活用した校内研修の実施を、平成29年度の年間計画に提案してみませんか。



『生徒指導「進め方」パッケージ』から

①スライド資料
（研修担当者の進行原稿）
②提示用資料
（パワーポイントのスライド）
③配付用資料
（受講者への配付スライド資料）
④ワークシート
（受講者の研修資料）
⑤事例
（課題別研修の研修資料）
※研修を運営する生徒指導担当者の準備や進行の負担が軽くなるよう工夫しています。



○生徒指導の基礎研修
■生徒指導の「基礎」を学ぶ
■生徒指導の「進め方」を学ぶ

○生徒指導の課題別研修
■いじめ
■不登校
■暴力行為
の対応と未然防止について学ぶ

協議中心の研修なので、同僚性が高まります。
ベテランから若手へ、知識・スキル・思いの伝承が図られます。

授業日の放課後でも実施できます！
60分を２回に分けて実施するなど、各校の状況に合わせて使用できます。

『校内研修パッケージ』を活用した研修を実施して、組織的な生徒指導力を高めるとともに、
・全ての児童生徒に「居場所」のある学校づくり
・児童生徒の関わり合いを通して「絆」づくりができる学校づくり
・学習意欲や自己指導能力を高めることのできる学校づくり
について共通理解を図りましょう。

『校内研修パッケージ』は岡山県総合教育センターのWebページから全てダウンロード（下記）できます。校内研修実施に関する質問等ありましたら生徒指導部（0866-56-9105）までお問い合わせください。

【http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/seitoshido/digitaltext_2015/index.html】

【実施校の教員の声】
・教職員同士の共通理解や学校としての指導力を上げるために大切な研修だと思いました。
・事例を用いた研修を通して、効果的な指導と再発防止の取組を学ぶことができました。
・様々な年代の先生と話し合うことで、いろいろな方法や考えを知ることができ、今後の指導の参考になりました。自分の日頃の指導を見直すきっかけにもなりました。

【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/　（担当・生徒指導部）

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度第25号（通算276号）
平成29年２月17日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

子供たちに「主体的・対話的で深い学び」を ③

これまで、アクティブ・ラーニングによる授業改善の三つの視点として、「主体的な学び」(第21号)と「対話的な学び」(第23号)を紹介してきました。シリーズ最終回は、「深い学び」について紹介します。

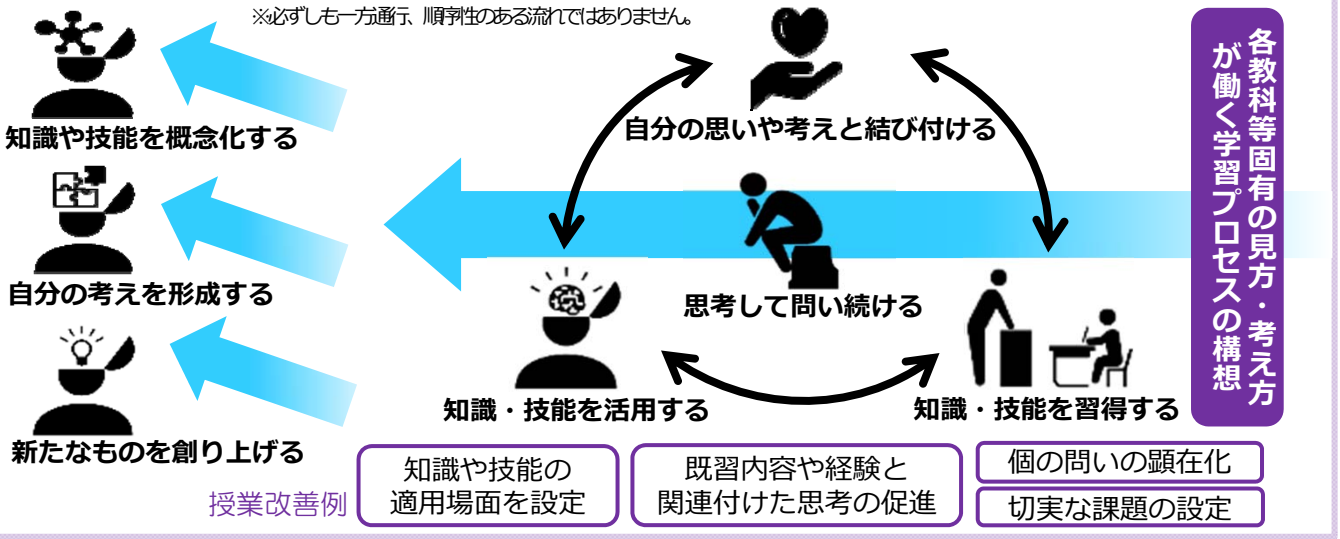
深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

中央教育審議会答申から　※下線：岡山県総合教育センター

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

「深い学び」を実現する子どもの姿(イメージ)　(独)教員研修センター次世代型教育推進センター作成資料から



知識・技能を習得する

見通しを持った学習過程の中で、主体的に知識・技能を習得する。
（高等学校 古典の例）

自分の思いや考えと結び付ける

登場人物に思いを寄せながら、自分で読み取ったことを表現し、考えを深める。
（小学校 国語の例）

ポイント

毎時間の授業の中で、三つの視点（「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」）をすべて実現することが求められているわけではありません。

単元や題材のまとまりの中で、

- **「主体的に学習を見通し振り返る場面」や「グループなどで対話する場面」をどこに設定するか**　重要!
- **学びの深まりをつくり出すために、「児童生徒が考える場面と教員が教える場面」をどう組み立てるか**　重要!

といった視点をもって、授業づくりを行うことが大切です。

県総合教育センターHPに「アクティブ・ラーニング」コーナーを新設しました!!

2/19 の県総合教育センター教育研究発表大会で配付する
◆H28年度版リーフレット
◆研究協力校等の実践事例
等がダウンロードできます。

【県センターＨＰ】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/alpt/index.html

次回の発行は、3月3日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

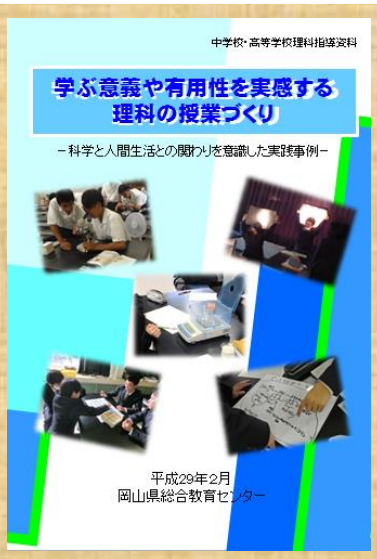
（担当・教科教育部）

岡山県総合教育センターだより
羅針盤
平成28年度第26号（通算277号）
平成29年３月３日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101　Fax (0866)56-9121

中学校・高等学校理科指導資料

学ぶ意義や有用性を実感する理科の授業づくり

－科学と人間生活との関わりを意識した実践事例－



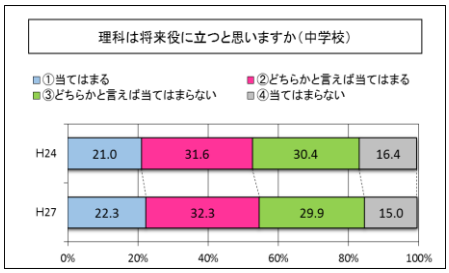
理科を学ぶことに対する意義・有用性に関する生徒の意識については、改善の兆しはあるものの、依然として課題が見られ、この課題の克服につながる授業づくりを目指して研究を行いました。この度、研究成果をまとめた中学校・高等学校理科指導資料「学ぶ意義や有用性を実感する理科の授業づくりー科学と人間生活との関わりを意識した実践事例ー」を発刊し、各校に配付するとともに、総合教育センターのWebページに掲載しました。そこで、今号では、その概要を紹介します。ぜひ、積極的に活用してください。

指導資料はこちらからダウンロードできます！
http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h28/16-01.pdf

A4判　全59頁

第１部　研究編

全国学力・学習状況調査生徒質問紙と共通の調査項目及び、独自の項目と記述式の回答を加えたアンケートを、協力委員が所属する県下中・高等学校の担当クラスで実施し、その分析を行いました。その結果、教師から生徒への「知識の伝達」が中心となっていることが多く、生徒の「主体的な学び」の機会が十分ではないことが考えられました。そこで、教師による一方向の「知識の伝達」型の授業を改善し、生徒の「気付き」を引き出すことが、生徒が学ぶ意義や有用性を実感する授業において大切だと考え、下に示す三つの視点からの授業づくりを行い、実践しました。本指導資料では、この三つの視点について大切なことや、授業での効果的な手立てなどをまとめています。



H27年度全国学力･学習状況調査の全国結果
改善の兆しはあるものの（肯定的回答H24:52.6%→H27:54.6%）、他教科（国語H27:84.1%、数学:72.3%）と比較すると、依然として低く、課題である。

授業づくりの三つの視点　知識の伝達 ⇒ 自ら学び自ら気付く

（１）実態把握と題材選び
－授業・単元の構想の段階で意識すること－

（２）思考場面の設定
－１単位時間の授業で意識すること－

（３）学びの手ごたえ
－授業・単元を貫いて意識すること－

第２部　中学校・高等学校における実践事例編

中学校、高等学校の１２の実践事例を掲載しています。それぞれの実践事例では、授業で用いたワークシートや授業の様子、生徒の感想なども随所に掲載していますので、授業づくりの参考にしていただければと思います。また、地区での研修会等で、紹介している実践事例を基に、生徒が理科を「学ぶ意義や有用性を実感する理科の授業づくり」を行うためにどのような取組ができるかなど、研修の協議資料として活用していただくのも効果的です。

中学校　４事例
高等学校　８事例

実践事例の構成
(1)授業づくりの視点
(2)実践例
(3)実践から見えてきたもの

次回の発行は、3月17日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

（担当・教科教育部）

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

平成28年度第27号（通算278号）
平成29年３月17日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel(0866)56-9101　Fax(0866)56-9121

平成28年度に実施した生徒指導に関する主な研修講座を紹介します

◆子どもの育ちを支える学校教育相談研修講座（課題別）　６月

【午前の講義・演習】
「生徒指導に生かす学校教育相談」
神田外語大学
教授　嶋﨑　政男

まず心理的事実を受容し、客観的事実を伝えることの大切さが分かりました。

【午後の課題別グループ研修】
○ブリーフセラピーを生かした教育相談の進め方
○グループエンカウンターを活用した集団づくりの進め方

◆発達障害の特性理解に基づいた二次障害予防研修講座（実践生徒指導）　８月

【午前・午後の講義・演習】
「障害者差別解消法と学校における『合理的配慮』のあり方」
京都工芸繊維大学
教授　藤川　洋子

二次障害予防のため、どんなことができるのか、イメージがわきました。

◆子どもの内面理解に基づいた校内支援体制づくり研修講座（生徒指導体制パワーアップ）　６月

【午前の講義】
「問題行動を起こす子どもの内面理解と対応」
長野総合法律事務所
弁護士　峯本　耕治

問題行動の背景を考えながら、支援を考えていくことが大切だと分かりました。

【午後の演習・協議】
○子どもの実態把握に基づく事例検討の進め方

◆教職員が支え合う風土づくり研修講座　８月

【午前の講義】
「教職員のメンタルヘルスと同僚性」
兵庫教育大学大学院
教授　新井　肇

同僚性が土台となって、学校内の様々な活動や心の問題等が改善されていくことが分かりました。

【午後の演習・協議】
○教職員間の人間関係づくり

上記以外の研修講座

【基礎】
◆子どもの心の扉を開く教師のコミュニケーション力向上研修講座
◆子ども同士の人間関係づくり研修講座
◆学級（ＨＲ）づくり等に活用できるアセス等を用いた児童生徒理解研修講座
【課題別】
◆子ども同士が支え合う関係づくり研修講座
◆Ｑ－Ｕ等を活用した学級（ＨＲ）集団づくり研修講座
【生徒指導体制パワーアップ】
◆チームで取り組むための体制づくり研修講座
◆知っておきたい生徒指導上の危機対応を考える研修講座
◆地域の関係機関等と連携した支援体制づくり研修講座

【実践生徒指導】
◆新たな不登校・長期欠席を生まない研修講座
◆不登校・長期欠席からの復帰に向けた支援を考える研修講座
◆いじめ（ネットいじめを含む）の未然防止を考える研修講座
◆子どもの学校適応感を高める集団づくり研修講座
◆学び合う授業づくりで児童生徒の育ちを支える研修講座

平成29年度も魅力的な講座がいっぱいです。ぜひ、計画的に受講し、教師力アップ、学校力アップにお役立てください！

（担当・生徒指導部）

次回の発行は、４月21日（金）の予定です。
【バックナンバー】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/

© 岡山県「ももっち」